

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600251
法人名	有限会社 エンジェル・コール
事業所名	グループホーム 緑の家
所在地	西条市飯岡1896番地
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・静かな環境のもとで、広い土地に緑が多い庭に平屋建ての落ち着いた生活環境である。 ・職員皆で考えた理念である「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」に近づけるよう、利用者の方の思いを第一に考え、安心して穏やかに過ごせるよう支援している。 ・職員は笑顔を大切に、優しい声かけや対応を心がけている。 ・庭に畑を作り、季節の野菜や草花の手入れや収穫を利用者の方と一緒に行うことで、五感への働きかけをしている。 ・ホームの玄関に掲示板を使用し、行事の写真や予定を貼ってわかりやすくしている。 ・年に4回、家族の方に写真付きの手紙を送り、ホームでの暮らしぶりや近況の情報を伝えるにしている。 ・誕生日や敬老の日、クリスマスのプレゼントは手作りを心がけている。 ・年2回の防火訓練(消防署員指導)と、毎月1回、避難訓練を行っている。 ・毎月、実技を取り入れた勉強会や、勤続年数ごとの研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園地帯にある和風平屋の事業所は、今年2月に開設されている。事業所のある飯岡地区には介護施設がなく、地域住民から歓迎されて建設された経緯がある。職員全員で考え作り上げた「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」という理念を作成し、利用者の笑顔を引き出すケアの実践に努めている。管理者は理学療法士の資格を持ち、その技術を生活リハビリとしてケアの中に生かされている。食事作り風景は和やかで、利用者同士がお喋りをしながら下ごしらえや調理を手伝っている。利用者ができる能力を発揮し、役割が持てるように支援を行っており、職員は利用者に感謝の言葉を伝えている。また、家族への働きかけを積極的に行い、家族会の開催やアンケート調査の実施、運営推進会議へ参加を呼びかけるなど、様々な機会を作り意見を聞き運営に反映しようとしている。家族から自家栽培しているキウイ畑に招待され、利用者と共にキウイ狩りを楽しんだり、ボランティアの申し出もあつたりするなど良好な関係を築くよう努めている。家族と職員が心を合わせて、「利用者第一」のケアを実施しようとしている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 緑の家

(ユニット名) 北

記入者(管理者)
氏名 田中 哲也

評価完了日 平成 26 年 10 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を掲示することにより、職員の意識づけにも努力している。また、全職員の名札の裏に会社理念や会社方針などを入れ、いつでも確認出来るようにしている。利用者さんが一日一回でも楽しいと喜んでもらえるようにと考え実践している。</p> <p>(外部評価) 職員全員で意見を出し合い、「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」という理念を作成し、パンフレットや事業所内に掲示しているほか、職員は名札の裏にも携帯している。理念を実現するために利用者を一番に考え、職員は笑顔で接することで利用者の笑顔を引き出せるよう努力している。今後も職員全員で理念を共有し、振り返りをしながら実践に繋げていこうとしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 年に一回夏祭り大会を開催（今年は雨天中止）し、地域の方に参加してもらえよう声掛けをしている。近所のホームセンターやスーパーに買い物に行っている。地域の神社の祭りごとに参加している。</p> <p>(外部評価) 事業所のある飯岡地区には介護施設がなく、地域住民から歓迎されて建設されたこともあり、運営に協力的である。利用者や職員は地元出身者が多く、管理者は地域に根ざした事業所運営を行いたいと考えており、地域行事に積極的に参加したり、幼稚園や小学校、公民館などと交流を広げようとしている。運営推進会議の参加者や地元の職員から地域行事の情報もらい、地区運動会や夏越し祭り、保育園の運動会などに利用者と一緒に参加し、大変喜ばれている。</p>	管理者は「地域に根ざした運営を行いたい」と考えており、地域行事等にも積極的に参加していく意向である。事業所開設の初年度から地域交流に重ねているほか、近隣の小学校や幼稚園、公民館などとの交流も考えているため、日頃から利用者が社会参加できるよう支援していくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議において、ミニ介護講座等を開いて、地域の方や家族の方に認知症の方の理解や支援に方法を伝えるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、サービスの内容や事業所の行事、設備や利用者さんの状況について報告している。職員と地域の方々との話し合う場を持ち、多くの意見を頂いている。改善出来る事はすぐに改善し、地域の方々の意見を職員全員に働きかけるなどサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地域住民、民生委員、地区社協職員、地域包括支援センター職員、消防署等の参加を得て開催している。会議では、利用者の状況や活動報告を行うほか、ミニ介護講座等を合わせて開催する工夫をし参加者から好評を得ている。参加者から情報提供や活発な意見が出され、ボランティアの申し出があったり、要望が出されることもある。今後も地区公民館長や交番の駐在員など多角的な参加を呼びかけることを計画している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホーム内での事故や苦情等は、連絡や相談させてもらっている。何かあった時には、市町村へ連絡し、適切な発言や指導をしてもらう事で、サービス等の質の向上を図っている。</p> <p>(外部評価) 事業所開設にあたり市担当者に相談し、助言を得ている。市担当者には事業所内の事故報告を提出し、原因を追究し改善に導く仕組みがあり、事故防止に取り組んでいる。地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加し、事業所の状況把握してもらったほか、助言をもらっている。また、地域包括支援センターの研修に参加したり、困難ケースの相談を受けたりするなど、相互の協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 社内の勉強会や研修、社外研修などを通して、職員一人一人が理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を持ち、業務に取り組んでいる。スタッフ間でも呼びかけ合いながら身体拘束防止に努めている。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている。(20:00～8:00)</p> <p>(外部評価) 利用者に寄り添い見守ることで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束防止マニュアルを作成し、新入職員への教育に取り入れると共に、年間教育計画の中にも身体拘束に関するテーマを取り入れ、研修や話し合いを積み重ねながら正しく理解している。また、言葉の拘束にも気をつけ、気になる場合にはその都度具体的に指導をして防止に努めている。日中は玄関の施錠をせず職員の見守りなどで対応しているが、利用者は自由に出入りすることができるため、一人で歩いている利用者を地域住民が事業所まで連れて来てもらうこともあった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社外の研修や社内の勉強会で、虐待防止について学んでいる。職員間でも虐待が起こることのないように話し合いや呼びかけをしながら虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に出来るだけ参加し、報告書を作成している。研修会に参加出来なかった職員は報告書に目を通す事で周知できるように努力している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の方や家族の方には、分かりやすく丁寧に説明をするよう心がけながら、十分な説明を行っている。納得をもらった上で手続き行い、信頼を得られるように努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会を開催して、利用者の方又は家族の方からの意見や要望を表せる機会を設けている。また、日頃から利用者の方や家族の方との関わりを多く持つなど、気軽に何でも言ってくれるような関係づくりを心がけている。	
			(外部評価) 利用者や家族に運営推進会議に参加してもらうよう努め、意見や思いを表せる場としている。日々の会話の中で利用者から意見や要望を聞き実現できるよう努めており、本好きの利用者と一緒に図書館に行けるよう支援している。面会時や家族会の開催時に家族から意見や要望を聞くように努めている。家族にはアンケート調査も実施し、アンケートの結果を報告書にまとめ、家族に送付して、管理者はケアに反映させたいと考えている。また、お便りに添えて職員が利用者の様子を自筆した手紙を送付し、遠方に住む家族にも近況が分かるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回スタッフ全員参加の各部署会議や、毎朝の申し送りの時に職員同士の話し合いや意見を聞く機会を設けて、利用者の方に良いサービスを支援できるよう反映させている。 (外部評価) 毎月開催される職員全員が出席する各部署会議で、意見を出し合うようにしている。事業所内で問題解決が困難な場合は、法人の管理者会に報告し検討できる仕組みがあり、検討した結果を報告している。法人では職員が働きやすい環境づくりに努めており、女性が働き続けられるよう労働時間や勤務体制、育児休暇の取得等にも配慮し職場復帰をする職員も多い。また、職員研修にも力を入れており、法人内の勉強会や外部研修に参加する機会を保障するなど、質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員一人一人の日頃の努力や勤務状況を、その都度話し合う時間を持ち確認している。また、資格に対しての支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるような職場環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月1回社内での全体勉強会があり、実技と講義を受けている。また、社内で研修班を設置し、勤務年数に応じて研修を行っている。社外の研修には、職員の力量に応じて参加し、研修内容は報告書として出している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設の運営推進会議に参加させてもらったり、自ホームの運営推進会議に参加してもらうなど、同業者と交流する機会を持っている。また、社外の研修にも参加し、意見交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には、本人さんの気持ちに配慮しながら向き合い、ゆっくりと話しを聞くようにしている。要望など知り得た情報はフェイスシートやアセスメントシートに具体的に記入し、職員間で共有している。また、本人さんのペースに合わせた対応を心がけており、安心してもらえるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には家族さんの要望や困っていること、心配なことなど、ゆっくり時間をかけて聞くよう努めている。また、こまめに電話連絡や面会時にはホームでの様子を伝えるなど、何でも相談しやすいよう、家族さんとの関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の方や家族の方の思いを理解できるようじっくり話し合う時間を設けて、今必要としている支援を見極めるよう対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方に厨房のお手伝いや洗濯物たたみなど、日頃のできることで役割を持ってもらったり、利用者の方と一緒に楽しむということを大切にしている。また、思いやり合うこと、感謝の気持ちを伝えることを心がけて利用者の方との関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方から情報を得たり、面会時にはその都度ホームでの生活状況を報告している。また、ホームの行事にもできるだけ参加して頂き、利用者の方と一緒に過ごしてもらえるよう声かけしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には、馴染みの方とゆっくり過ごしてもらえるように心がけている。また、馴染みの方や場所の話しを会話の中にも取り入れるよう心がけ、喫茶店や神社やスーパーなど馴染みの場所へ外出するよう企画し実行している。 (外部評価) 近隣からの利用者が多く、家族や親戚、知人、近所の方の面会も多い。お互いが知り合いだったという利用者も数名いる。日々の生活の中で昔のことを聞いて近所の神社と一緒に参りに行ったり、行きつけの喫茶店で誕生日の祝いをするなど馴染みの関係を大切に支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中で利用者の方と職員が関わる時間を多く持ち、利用者の方同士の関係が把握できるように見守りや声かけを行い、孤立しないように努めている。また、座る位置にも配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方の面会へ行き、家族の方からの相談に応じたりその後の様子を伺ったりしている。また、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい様な雰囲気づくりを心がけており、得た情報はフェイスシートを利用して職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては家族の方に相談したり日々の関わりの中で言葉や表現から把握するように努めている。 (外部評価) 入居時に把握している情報に加えて、日々の生活の中で利用者から「昔は〇〇だった」などという思いを聞いている。思いや意向の把握が困難な利用者には家族から情報を聞いたり、表情や口調からくみ取ったりするなど理解に努めている。新たに得た情報はフェイスシートに追加記録し、職員間で共有するようにしている。また、サービス担当者会議に利用者本人にも参加してもらい、意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の方や家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し職員間で共有している。同一法人内の別事業所を利用されていた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 経過記録やフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。また、病状の変化については、その都度カルテに記載し、医師からの指示は赤枠で囲み解りやすくしている。大きな変化などは、介護計画書、フェイスシートに付け足し、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度、介護計画書の見直しを行っている。 (外部評価) 初回の介護計画は利用者や家族の意向を聞き、計画作成担当者が理念を念頭に置いて作成している。2回目以降は利用者毎の担当者が他の職員からの情報を聞いてモニタリングを行い、3か月毎に介護計画の見直しを行っている。また、6か月に1回家族の面会時に合わせて、サービス担当者会議を開催し介護計画の更新をしている。また、遠方に住む家族には電話で介護計画の説明を行い、郵送で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践などは経過記録に記載している。また、気づきや状態の変化は、経過記録や介護計画書に付け足して記入するなど、見直しの際に活かしている。情報の共有については朝夕の申し送りや入居者情報を用いて伝達している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎など、必要な支援は柔軟に対応するように努めている。また地域の運動会やお花見など個別のニーズに合わせて参加するようにしている。医療面では訪問看護にフォローしてもらっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くのスーパーで買い物をしている。防火訓練時には消防の方にも来てもらっている。また、季節によって利用者の方に合わせて、身近な公園や花が咲く観光スポット等の地域資源の利用を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者の方、家族の方の意向を確認し、協力病院がかかりつけ医になっている方が多いが、入居前からのかかりつけ医を継続されている方もいる。受診後には受診状況を家族の方に連絡している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を継続して受診することができる。協力医の訪問診療があるため、協力医をかかりつけ医としている利用者が多い。定期的に訪問診療と訪問看護があり、日常的な健康管理を行なっている。専門医などを受診する場合は家族の同行を基本としているが、車の乗降介助が必要な場合には職員が同行して介助をすることもある。緊急時は職員が付き添い、家族に連絡して病院で待ち合わせをするようにしている。また、急性期治療を終えて退院をする際には、医療的処置が必要でない限り受け入れ、生活リハビリで回復を促している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者の方の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。また、職員はいつもと違う様子に気づいた時には協力病院へ連絡をし、受診をしたり、本社の訪問看護ステーションの看護師に報告し相談も行っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入退院時には、主治医や、ケースワーカーとの連携を持ち、情報交換を行い退院後の受け入れ態勢を整えるように努めている。また、医療機関の勉強会に参加するなど、関係作りに努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 終末期を迎えるにあたり、早い段階から家族の方、医師との話し合いを持つよう、終末期に関しての指針（家族の方、主治医の協力がある。医療行為は行わない）を定めており、説明を行うようにしている。職員間の意識の確認も行っている。</p> <p>(外部評価) 「看取りに関する指針」を定め、看取り介護を行う方針である。事業所が開設して1年未満で看取りの経験はないが、法人内の他の事業所での経験はしている。管理者は終末期ケアを行うにあたり、事業所での看取りを希望する家族の協力に合わせて、主治医や看護師などとの連携と協力体制を整えることが必須であると考えており、協力医や訪問看護ステーションに協力してもらえるよう了解も得ている。今後は、利用者や家族の希望に添って、話し合いを重ねながら対応していきたいと考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時の対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を毎月行い、2回/年の訓練時は消防署の方立ち合いのもと、夜間及び昼間想定での避難訓練を行っている。1回/年津波想定での避難及び受け入れ訓練も行っている。	
			(外部評価) 事業所が開設して9か月であるが、消防署の協力を得て日中と夜間を想定した避難訓練を2回実施している。訓練には、利用者や家族、地域住民、運営推進会議の参加者も参加して一緒に実施している。他にも、事業所独自の防災等の年間計画を立て、毎月火災や津波等の災害を想定した避難訓練を実施しており、職員の防災意識を高めている。各居室の表札の裏には「避難しました」と表示があり、災害発生時には利用者が避難したことを確認すると裏返し、分かりやすいよう工夫している。緊急連絡網には、職員一人ひとりが事業所まで駆け付けるのに要する時間が記載されている。また、水や食糧等の備蓄品を用意し、災害発生時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の関わりの中で、人生の先輩として人格を尊重した関わりを持つように努めている。今後も、職員同士で声をかけ合いながら、常に声かけや対応に配慮するよう心がけていきたい。	
			(外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として尊重した対応を心がけている。そのためには、利用者の辿ってきた生活歴を把握し、管理者は利用者一人ひとりの暮らしたい思いに寄り添った支援を行いたいと考えている。特に入浴やトイレ介助時には羞恥心やプライバシーに配慮し、利用者の意向に沿って同性介助を行なっている。また、トイレ誘導の際は、利用者の近くに行きそっと声かけを行うなど等の配慮をしている。また、利用者の呼び方は、入居時に利用者や家族に確認し、好みの呼び方で呼ぶようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方が自分で選択・決定できるような言葉かけを心がけている。自己表現しにくい方には表情やしぐさなどから思いをくみとり、職員間で情報の共有に努めて利用者の方に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、できる限り利用者の方のペースに合わせてるように努めているが、外出支援などの時間は職員側の都合になってしまっている場合がある為、職員間で協力していきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や更衣の時に、本人さんに服を選んでもらっている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらっている。本人の希望があれば、化粧やネイルアート等のおしゃれを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日々の食事作りは職員が行っているが、エビの皮むきやもやし の根とりゴボウの笹がきなどの下ごしらえなどは利用者の方と一緒にしている。また、昼食作りやおやつ作りなどを計画し、一緒に作るなど楽しみにつながるよう努めている。 (外部評価) 栄養士が配置され、職員は利用者と一緒に調理をしている。調査日には、数名の利用者がキッチンの調理台を囲んで、にぎやかに昼食を準備する様子が見られた。職員は普段の話から聞いた利用者の好みのメニューを把握しており、栄養士に報告し献立に反映させている。また、利用者の嚥下状態に合わせて、食事形態を工夫したり、利用者が自力で食べやすいようスプーンの大きさや食器の選定にも配慮したりしている。また、誕生日には利用者の希望に合わせて外食を楽しんだり、誕生ケーキをみんなで作ってお祝いをしたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が、栄養バランスを考え献立を作成し記録表に食事や水分摂取量を記入して必要量が確保できるように心がけている。また、状態に応じて水分量や食事内容などを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声かけを行い、利用者の方に応じた口腔ケアを行っている。定期的に、義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来るだけ時間や習慣を把握する為に一人一人の排泄情報を記録している。排泄記録表を確認しながらトイレ誘導を行っている。始末の仕方やズボンの上げ下げは出来るだけ声をかけ、出来ない部分のみ介助に心がけている。	
			(外部評価) 日中はトイレで排泄できるよう支援している。一人ひとりの排泄のパターンを把握し、時間に合わせて声かけを行い、トイレに誘導している。一人でトイレに移動することが難しい利用者にも、できるだけ自力で排泄をしたいという希望に沿って、居室のポータブルトイレで排泄してもらえるよう支援している。また、手作りの尿取りパットを使用している利用者もあり、汚れたら職員が洗濯している。利用者一人ひとりの能力や思いに沿った支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつにて消化のよいものや野菜類など多く食べてもらっている。また、水分摂取量確認し、飲みにくい方に関しては、清涼飲料水やココアなど本人さんの好まれる物で水分を十分に補うようにしている。リハビリや散歩で体を動かすようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その都度、利用者の方に声かけして、意向や希望を確認し入浴してもらっている。熱めのお湯が良いのか、ぬるめが良いのか湯船に入るのかなどその都度声かけして確認しながら気持ち良く入浴できるよう支援している。	
			(外部評価) 毎日利用者全員に声をかけ、入浴回数や時間、湯の温度など利用者の要望に合わせて入浴できるよう支援している。生活習慣に合わせて、夕方や午前中に入浴する利用者もいる。利用者は職員と1対1で昔話をしながら、ゆっくり入浴を楽しんでいる。入浴を嫌う利用者には、職員が交替して声かけしたりタイミングを工夫したりするなど、気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。また、季節を感じられるよう、菖蒲湯や柚子湯なども用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時の様子や体調などに合わせて居室で休んでもらったり、ソファでくつろいでもらったりしている。気持ち良く休んでもらう為にベッド周辺の環境整備にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明がされているものを経過記録に綴じて理解できるように努力している。また、わからない時には看護師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯干しや洗濯物たたみ、食事の準備などの状態に応じて、できる事してもらっている。嗜好品については、食事以外で近くのスーパーへ一緒に買い物へ行ったり、家族さんに持って来てもらったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の方で希望にそって戸外に散歩に出かけたり、行事の時には外食に行ったり、家族さんとドライブや買い物に行ったりしている。 (外部評価) 玄関先や建物の周囲は広く、天気の良い日は敷地内を散歩している。敬老の日などには、中庭に出て弁当を食べることもある。季節に応じて、桜や菖蒲、あじさいなどの花見に出かけたり、近くの温泉で足湯を楽しんだりするなど、車いすの利用者も一緒に全員で外出できるよう支援している。また、家族からの招待を受け自家栽培のキウイ狩りを楽しんだり、近くの保育園の運動会に利用者と一緒に参加したりするなど、外出する機会は多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いに関しては自己管理が難しい為、ホームにて管理している。利用者の方が希望された時にはホームで立て替えし、後日家族の方へ請求をさせてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は、携帯電話を持たれている方以外は、本人さんが連絡を取りたい時などにやり取りができるように電話の使用や手紙の投函など職員が支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 脱衣場では、出来るだけ、温度差がないように気を付けている。ホールには、季節に応じたものを飾るようにしている。状態に応じて、テーブルの配置等も考えるようにしている。レースのカーテンを使用して眩しすぎないようにしている。ホールにもソファを置いて寛げるようにしている。</p> <p>(外部評価) 芝生が植えられた中庭を2つのユニットが囲み、リビングから庭の背後に広がる西条市内を一望することができる。また、庭の一角に菜園があり、利用者と一緒に野菜づくりをしている。2つのリビングに挟まれた位置にキッチンがあり、利用者が集まって一緒に食事の準備をした後も、利用者同士が和やかにお喋りしている様子が見られた。玄関にあるイーゼルに外出時や行事の写真が飾られ、利用者の暮らしの様子を垣間見ることができた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにソファを置き、自由に過ごせるようにしている。また、玄関先のベンチでゆっくりと過ごされたり、気の合う利用者の方同士、居室を隣同士に配置し、好きな時に一緒に過ごしたりできるように工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅や前施設で使っていたものを持って来られ、家族の方の写真や飾りを置いたりされている。また、好まれる花を飾っている方もおり、居心地良く過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、整理ダンス、テレビ、エアコンが備え付けられている。ベッドは利用者の状態に合わせて、電動と畳ベッドが用意され使い分けている。寝具は自宅から持参してもらうほか、レンタルすることもできる。米寿のお祝いに撮った親族の集合写真や特技の書、手作りの作品を飾るなど、利用者に合わせて居心地良く過ごせる空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。廊下には歩行の障害になるものは置かないようにしている。また、各居室には名札があり、わかりやすくしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600251
法人名	有限会社 エンジェル・コール
事業所名	グループホーム 緑の家
所在地	西条市飯岡1896番地
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・静かな環境のもとで、広い土地に緑が多い庭に平屋建ての落ち着いた生活環境である。 ・職員皆で考えた理念である「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」に近づけるよう、利用者の方の思いを第一に考え、安心して穏やかに過ごせるよう支援している。 ・職員は笑顔を大切に、優しい声かけや対応を心がけている。 ・庭に畑を作り、季節の野菜や草花の手入れや収穫を利用者の方と一緒に行うことで、五感への働きかけをしている。 ・ホームの玄関に掲示板を使用し、行事の写真や予定を貼ってわかりやすくしている。 ・年に4回、家族の方に写真付きの手紙を送り、ホームでの暮らしぶりや近況の情報を伝えるにしている。 ・誕生日や敬老の日、クリスマスのプレゼントは手作りを心がけている。 ・年2回の防火訓練(消防署員指導)と、毎月1回、避難訓練を行っている。 ・毎月、実技を取り入れた勉強会や、勤続年数ごとの研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園地帯にある和風平屋の事業所は、今年2月に開設されている。事業所のある飯岡地区には介護施設がなく、地域住民から歓迎されて建設された経緯がある。職員全員で考え作り上げた「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」という理念を作成し、利用者の笑顔を引き出すケアの実践に努めている。管理者は理学療法士の資格を持ち、その技術を生活リハビリとしてケアの中に生かされている。食事作り風景は和やかで、利用者同士がお喋りをしながら下ごしらえや調理を手伝っている。利用者ができる能力を発揮し、役割が持てるように支援を行っており、職員は利用者へ感謝の言葉を伝えている。また、家族への働きかけを積極的に行い、家族会の開催やアンケート調査の実施、運営推進会議へ参加を呼びかけるなど、様々な機会を作り意見を聞き運営に反映しようとしている。家族から自家栽培しているキウイ畑に招待され、利用者と共にキウイ狩りを楽しんだり、ボランティアの申し出もあつたりするなど良好な関係を築くよう努めている。家族と職員が心を合わせて、「利用者第一」のケアを実施しようとしている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 緑の家

(ユニット名) 南

記入者(管理者)
氏名 田中 哲也

評価完了日 平成 26 年 10 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を掲示することにより、職員の意識づけにも努力している。また、全職員の名札の裏に会社理念や会社方針などを入れ、いつでも確認出来るようにしている。利用者さんが一日一回でも楽しいと喜んでもらえるようにと考え実践している。</p> <p>(外部評価) 職員全員で意見を出し合い、「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」という理念を作成し、パンフレットや事業所内に掲示しているほか、職員は名札の裏にも携帯している。理念を実現するために利用者を一番に考え、職員は笑顔で接することで利用者の笑顔を引き出せるよう努力している。今後も職員全員で理念を共有し、振り返りをしながら実践に繋げていこうとしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 年に一回夏祭り大会を開催（今年は雨天中止）し、地域の方に参加してもらえよう声掛けをしている。近所のホームセンターやスーパーに買い物に行っている。地域の神社の祭りごとに参加している。</p> <p>(外部評価) 事業所のある飯岡地区には介護施設がなく、地域住民から歓迎されて建設されたこともあり、運営に協力的である。利用者や職員は地元出身者が多く、管理者は地域に根ざした事業所運営を行いたいと考えており、地域行事に積極的に参加したり、幼稚園や小学校、公民館などと交流を広げようとしている。運営推進会議の参加者や地元の職員から地域行事の情報もらい、地区運動会や夏越し祭り、保育園の運動会などに利用者と一緒に参加し、大変喜ばれている。</p>	管理者は「地域に根ざした運営を行いたい」と考えており、地域行事等にも積極的に参加していく意向である。事業所開設の初年度から地域交流に重ねているほか、近隣の小学校や幼稚園、公民館などとの交流も考えているため、日頃から利用者が社会参加できるよう支援していくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議において、ミニ介護講座等を開いて、地域の方や家族の方に認知症の方の理解や支援に方法を伝えるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、サービスの内容や事業所の行事、設備や利用者さんの状況について報告している。職員と地域の方々との話し合う場を持ち、多くの意見を頂いている。改善出来る事はすぐに改善し、地域の方々の意見を職員全員に働きかけるなどサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地域住民、民生委員、地区社協職員、地域包括支援センター職員、消防署等の参加を得て開催している。会議では、利用者の状況や活動報告を行うほか、ミニ介護講座等を合わせて開催する工夫をし参加者から好評を得ている。参加者から情報提供や活発な意見が出され、ボランティアの申し出があったり、要望が出されることもある。今後も地区公民館長や交番の駐在員など多角的な参加を呼びかけることを計画している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ホーム内での事故や苦情等は、連絡や相談させてもらっている。何かあった時には、市町村へ連絡し、適切な発言や指導をしてもらう事で、サービス等の質の向上を図っている。	
			(外部評価) 事業所開設にあたり市担当者に相談し、助言を得ている。市担当者には事業所内の事故報告を提出し、原因を追究し改善に導く仕組みがあり、事故防止に取り組んでいる。地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加し、事業所の状況把握してもらうほか、助言をもらっている。また、地域包括支援センターの研修に参加したり、困難ケースの相談を受けたりするなど、相互の協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 社内の勉強会や研修、社外研修などを通して、職員一人一人が理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を持ち、業務に取り組んでいる。スタッフ間でも呼びかけ合いながら身体拘束防止に努めている。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている。(20:00～8:00)	
			(外部評価) 利用者に寄り添い見守ることで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束防止マニュアルを作成し、新入職員への教育に取り入れると共に、年間教育計画の中にも身体拘束に関するテーマを取り入れ、研修や話し合いを積み重ねながら正しく理解している。また、言葉の拘束にも気をつけ、気になる場合にはその都度具体的に指導をして防止に努めている。日中は玄関の施錠をせず職員の見守りなどで対応しているが、利用者は自由に出入りすることができるため、一人で歩いている利用者を地域住民が事業所まで連れて来てもらうこともあった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社外の研修や社内の勉強会で、虐待防止について学んでいる。職員間でも虐待が起こることのないように話し合いや呼びかけをしながら虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に出来るだけ参加し、報告書を作成している。研修会に参加出来なかった職員は報告書に目を通す事で周知できるように努力している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の方や家族の方には、分かりやすく丁寧に説明をするよう心がけながら、十分な説明を行っている。納得をもらった上で手続き行い、信頼を得られるように努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会を開催して、利用者の方又は家族の方からの意見や要望を表せる機会を設けている。また、日頃から利用者の方や家族の方との関わりを多く持つなど、気軽に何でも言ってくれるような関係づくりを心がけている。	
			(外部評価) 利用者や家族に運営推進会議に参加してもらうよう努め、意見や思いを表せる場としている。日々の会話の中で利用者から意見や要望を聞き実現できるよう努めており、本好きの利用者と一緒に図書館に行けるよう支援している。面会時や家族会の開催時に家族から意見や要望を聞くように努めている。家族にはアンケート調査も実施し、アンケートの結果を報告書にまとめ、家族に送付して、管理者はケアに反映させたいと考えている。また、お便りに添えて職員が利用者の様子を自筆した手紙を送付し、遠方に住む家族にも近況が分かるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回スタッフ全員参加の各部署会議や、毎朝の申し送りの時に職員同士の話し合いや意見を聞く機会を設けて、利用者の方に良いサービスを支援できるよう反映させている。	
			(外部評価) 毎月開催される職員全員が出席する各部署会議で、意見を出し合うようにしている。事業所内で問題解決が困難な場合は、法人の管理者会に報告し検討できる仕組みがあり、検討した結果を報告している。法人では職員が働きやすい環境づくりに努めており、女性が働き続けられるよう労働時間や勤務体制、育児休暇の取得等にも配慮し職場復帰をする職員も多い。また、職員研修にも力を入れており、法人内の勉強会や外部研修に参加する機会を保障するなど、質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員一人一人の日頃の努力や勤務状況を、その都度話し合う時間を持ち確認している。また、資格に対しての支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるような職場環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月1回社内での全体勉強会があり、実技と講義を受けている。また、社内で研修班を設置し、勤務年数に応じて研修を行っている。社外の研修には、職員の力量に応じて参加し、研修内容は報告書として出している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設の運営推進会議に参加させてもらったり、自ホームの運営推進会議に参加してもらうなど、同業者と交流する機会を持っている。また、社外の研修にも参加し、意見交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には、本人さんの気持ちに配慮しながら向き合い、ゆっくりと話しを聞くようにしている。要望など知り得た情報はフェイスシートやアセスメントシートに具体的に記入し、職員間で共有している。また、本人さんのペースに合わせた対応を心がけており、安心してもらえるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には家族さんの要望や困っていること、心配なことなど、ゆっくり時間をかけて聞くよう努めている。また、こまめに電話連絡や面会時にはホームでの様子を伝えるなど、何でも相談しやすいよう、家族さんとの関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の方や家族の方の思いを理解できるようじっくり話し合う時間を設けて、今必要としている支援を見極めるよう対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方に厨房のお手伝いや洗濯物たたみなど、日頃のできることで役割を持ってもらったり、利用者の方と一緒に楽しむということを大切にしている。また、思いやり合うこと、感謝の気持ちを伝えることを心がけて利用者の方との関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方から情報を得たり、面会時にはその都度ホームでの生活状況を報告している。また、ホームの行事にもできるだけ参加して頂き、利用者の方と一緒に過ごしてもらえるよう声かけしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には、馴染みの方とゆっくり過ごしてもらえるように心がけている。また、馴染みの方や場所の話しを会話の中にも取り入れるよう心がけ、喫茶店や神社やスーパーなど馴染みの場所へ外出するよう企画し実行している。 (外部評価) 近隣からの利用者が多く、家族や親戚、知人、近所の方の面会も多い。お互いが知り合いだったという利用者も数名いる。日々の生活の中で昔のことを聞いて近所の神社と一緒に参りに行ったり、行きつけの喫茶店で誕生日の祝いをするなど馴染みの関係を大切に支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中で利用者の方と職員が関わる時間を多く持ち、利用者の方同士の関係が把握できるように見守りや声かけを行い、孤立しないように努めている。また、座る位置にも配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方の面会へ行き、家族の方からの相談に応じたりその後の様子を伺ったりしている。また、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい様な雰囲気づくりを心がけており、得た情報はフェイスシートを利用して職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては家族の方に相談したり日々の関わりの中で言葉や表現から把握するように努めている。 (外部評価) 入居時に把握している情報に加えて、日々の生活の中で利用者から「昔は〇〇だった」などという思いを聞いている。思いや意向の把握が困難な利用者には家族から情報を聞いたり、表情や口調から読み取ったりするなど理解に努めている。新たに得た情報はフェイスシートに追加記録し、職員間で共有するようにしている。また、サービス担当者会議に利用者本人にも参加してもらい、意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の方や家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し職員間で共有している。同一法人内の別事業所を利用されていた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 経過記録やフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。また、病状の変化については、その都度カルテに記載し、医師からの指示は赤枠で囲み解りやすくしている。大きな変化などは、介護計画書、フェイスシートに付け足し、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度、介護計画書の見直しを行っている。 (外部評価) 初回の介護計画は利用者や家族の意向を聞き、計画作成担当者が理念を念頭に置いて作成している。2回目以降は利用者毎の担当者が他の職員からの情報を聞いてモニタリングを行い、3か月毎に介護計画の見直しを行っている。また、6か月に1回家族の面会時に合わせて、サービス担当者会議を開催し介護計画の更新をしている。また、遠方に住む家族には電話で介護計画の説明を行い、郵送で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践などは経過記録に記載している。また、気づきや状態の変化は、経過記録や介護計画書に付け足して記入するなど、見直しの際に活かしている。情報の共有については朝夕の申し送りや入居者情報を用いて伝達している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎など、必要な支援は柔軟に対応するように努めている。また地域の運動会やお花見など個別のニーズに合わせて参加するようにしている。医療面では訪問看護にフォローしてもらっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 防火訓練時には消防の方にも来てもらっている。また、季節によって利用者の方に合わせて、身近な公園や花が咲く観光スポット等の地域資源の利用を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者の方、家族の方の意向を確認し、協力病院がかかりつ け医になっている方が多いが、入居前からのかかりつけ医を 継続されている方もいる。受診後には受診状況を家族の方に 連絡している。 (外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を継続して受診するこ とができる。協力医の訪問診療があるため、協力医をかかり つけ医としている利用者が多い。定期的に訪問診療と訪問看 護があり、日常的な健康管理を行なっている。専門医などを 受診する場合は家族の同行を基本としているが、車の乗降介 助が必要な場合には職員が同行して介助をすることもある。 緊急時は職員が付き添い、家族に連絡して病院で待ち合わせ をするようにしている。また、急性期治療を終えて退院をす る際には、医療的処置が必要でない限り受け入れ、生活リハ ビリで回復を促している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の方の健康管理や状態の変化に応じた支援を行ってい る。また、職員はいつもと違う様子に気づいた時には協力病 院へ連絡をし、受診をしたり、本社の訪問看護ステーショ ンの看護師に報告し相談も行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入退院時には、主治医や、ケースワーカーとの連携を持ち、 情報交換を行い退院後の受け入れ態勢を整えるように努めて いる。また、医療機関の勉強会に参加するなど、関係作りに 努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所のできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期を迎えるにあたり、早い段階から家族の方、医師との 話し合いを持つよう、終末期に関しての指針（家族の方、主 治医の協力がある。医療行為は行わない）を定めており、説 明を行うようにしている。職員間の意識の確認も行ってい る。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を定め、看取り介護を行う方針であ る。事業所が開設して1年未満で看取りの経験はないが、法 人内の他の事業所での経験はしている。管理者は終末期ケア を行うにあたり、事業所での看取りを希望する家族の協力を 合わせて、主治医や看護師などとの連携と協力体制を整える ことが必須であると考えており、協力医や訪問看護ステー ションに協力してもらえよう了解も得ている。今後は、利 用者や家族の希望に添って、話し合いを重ねながら対応して いきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時の対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を毎月行い、2回/年の訓練時は消防署の方立ち合いのもと、夜間及び昼間想定での避難訓練を行っている。1回/年津波想定での避難及び受け入れ訓練も行っている。 (外部評価) 事業所が開設して9か月であるが、消防署の協力を得て日中と夜間を想定した避難訓練を2回実施している。訓練には、利用者や家族、地域住民、運営推進会議の参加者も参加して一緒に実施している。他にも、事業所独自の防災等の年間計画を立て、毎月火災や津波等の災害を想定した避難訓練を実施しており、職員の防災意識を高めている。各居室の表札の裏には「避難しました」と表示があり、災害発生時には利用者が避難したことを確認すると裏返し、分かりやすいよう工夫している。緊急連絡網には、職員一人ひとりが事業所まで駆け付けるのに要する時間が記載されている。また、水や食糧等の備蓄品を用意し、災害発生時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の関わりの中で、人生の先輩として人格を尊重した関わりを持つように努めている。今後も、職員同士で声をかけ合いながら、常に声かけや対応に配慮するよう心がけていきたい。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として尊重した対応を心がけている。そのためには、利用者の辿ってきた生活歴を把握し、管理者は利用者一人ひとりの暮らしたい思いに寄り添った支援を行いたいと考えている。特に入浴やトイレ介助時には羞恥心やプライバシーに配慮し、利用者の意向に沿って同性介助を行なっている。また、トイレ誘導の際は、利用者の近くに行きそっと声かけを行うなど等の配慮をしている。また、利用者の呼び方は、入居時に利用者や家族に確認し、好みの呼び方で呼ぶようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方が自分で選択・決定できるような言葉かけを心がけている。自己表現しにくい方には表情やしぐさなどから思いをくみとり、職員間で情報の共有に努めて利用者の方に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、できる限り利用者の方のペースに合わせてるように努めているが、外出支援などの時間は職員側の都合になってしまっている場合がある為、職員間で協力していきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や更衣の時に、本人さんに服を選んでもらっている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらっている。本人の希望があれば、化粧やネイルアート等のおしゃれを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日々の食事作りは職員が行っているが、エビの皮むきやもやし の根とりゴボウの笹がきなどの下ごしらえなどは利用者の方と一緒に 行っている。また、昼食作りやおやつ作りなどを計画し、一緒に作る など楽しみにつながるよう努めている。 (外部評価) 栄養士が配置され、職員は利用者と一緒に調理をしている。調査日には、数名の利用者がキッチンの調理台を囲んで、にぎやかに昼食を準備する様子が見られた。職員は普段の話から聞いた利用者の好みのメニューを把握しており、栄養士に報告し献立に反映させている。また、利用者の嚥下状態に合わせて、食事形態を工夫したり、利用者が自力で食べやすいようスプーンの大きさや食器の選定にも配慮したりしている。また、誕生日には利用者の希望に合わせて外食を楽しんだり、誕生ケーキをみんなで作ってお祝いをしたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が、栄養バランスを考え献立を作成し記録表に食事や水分摂取量を記入して必要量が確保できるように心がけている。また、状態に応じて水分量や食事内容などを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声かけを行い、利用者の方に応じた口腔ケアを行っている。定期的に、義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来るだけ時間や習慣を把握する為に一人一人の排泄情報を記録している。排泄記録表を確認しながらトイレ誘導を行っている。始末の仕方やズボンの上げ下げは出来るだけ声をかけ、出来ない部分のみ介助に心がけている。	
			(外部評価) 日中はトイレで排泄できるよう支援している。一人ひとりの排泄のパターンを把握し、時間に合わせて声かけを行い、トイレに誘導している。一人でトイレに移動することが難しい利用者にも、できるだけ自力で排泄をしたいという希望に沿って、居室のポータブルトイレで排泄してもらえるよう支援している。また、手作りの尿取りパットを使用している利用者もあり、汚れたら職員が洗濯している。利用者一人ひとりの能力や思いに沿った支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつにて消化のよいものや野菜類など多く食べてもらっている。また、水分摂取量確認し、飲みにくい方に関しては、清涼飲料水やココアなど本人さんの好まれる物で水分を十分に補うようにしている。リハビリや散歩で体を動かすようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その都度、利用者の方に声かけして、意向や希望を確認し入浴してもらっている。熱めのお湯が良いのか、ぬるめが良いのか湯船に入るのかなどその都度声かけして確認しながら気持ち良く入浴できるよう支援している。	
			(外部評価) 毎日利用者全員に声をかけ、入浴回数や時間、湯の温度など利用者の要望に合わせて入浴できるよう支援している。生活習慣に合わせて、夕方や午前中に入浴する利用者もいる。利用者は職員と1対1で昔話をしながら、ゆっくり入浴を楽しんでいる。入浴を嫌う利用者には、職員が交替して声かけしたりタイミングを工夫したりするなど、気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。また、季節を感じられるよう、菖蒲湯や柚子湯なども用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時の様子や体調などに合わせて居室で休んでもらったり、ソファでくつろいでもらったりしている。気持ち良く休んでもらう為にベッド周辺の環境整備にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明がされているものを経過記録に綴じて理解できるように努力している。また、わからない時には看護師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯干しや洗濯物たたみ、食事の準備などの状態に応じて、できる事してもらっている。嗜好品については、家族さんに持って来てもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の方で希望にそって戸外に散歩に出かけたり、行事の時には外食に行ったり、家族さんとドライブや買い物に行ったりしている。 (外部評価) 玄関先や建物の周囲は広く、天気の良い日は敷地内を散歩している。敬老の日などには、中庭に出て弁当を食べることもある。季節に応じて、桜や菖蒲、あじさいなどの花見に出かけたり、近くの温泉で足湯を楽しんだりするなど、車いすの利用者も一緒に全員で外出できるよう支援している。また、家族からの招待を受け自家栽培のキウイ狩りを楽しんだり、近くの保育園の運動会に利用者と一緒に参加したりするなど、外出する機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いに関しては自己管理が難しい為、ホームにて管理している。利用者の方が希望された時にはホームで立て替えし、後日家族の方へ請求をさせてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は、携帯電話を持たれている方以外は、本人さんが連絡を取りたい時などにやり取りができるように電話の使用や手紙の投函など職員が支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 脱衣場では、出来るだけ、温度差がないように気を付けている。ホールには、季節に応じたものを飾るようにしている。状態に応じて、テーブルの配置等も考えるようにしている。レースのカーテンを使用して眩しすぎないようにしている。ホールにもソファを置いて寛げるようにしている。	
			(外部評価) 芝生が植えられた中庭を2つのユニットが囲み、リビングから庭の背後に広がる西条市内を一望することができる。また、庭の一角に菜園があり、利用者と一緒に野菜づくりをしている。2つのリビングに挟まれた位置にキッチンがあり、利用者が集まって一緒に食事の準備をした後も、利用者同士が和やかにお喋りしている様子が見られた。玄関にあるイーゼルに外出時や行事の写真が飾られ、利用者の暮らしの様子を垣間見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールにソファを置き、自由に過ごせるようにしている。また、玄関先のベンチでゆっくりと過ごされたり、気の合う利用者の方同士、居室を隣同士に配置し、好きな時に一緒に過ごしたりできるように工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅や前施設で使っていたものを持って来られ、家族の方の写真や飾りを置いたりされている。また、好まれる花を飾っている方もおり、居心地良く過ごせるように工夫している。	
			(外部評価) 居室はベッド、整理ダンス、テレビ、エアコンが備え付けられている。ベッドは利用者の状態に合わせて、電動と畳ベッドが用意され使い分けている。寝具は自宅から持参してもらうほか、レンタルすることもできる。米寿のお祝いに撮った親族の集合写真や特技の書、手作りの作品を飾るなど、利用者に合わせて居心地良く過ごせる空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。廊下には歩行の障害になるものは置かないようにしている。また、各居室には名札があり、わかりやすくしている。	